

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104720
法人名	(有)ノリテック
事業所名	グループホームひがし野
所在地	愛媛県松山市畑寺町丙68-1
自己評価作成日	平成25年 1月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 2 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者本位を第一に日常生活が利用者主体になるよう取り組んでいる ・外に出かける機会を多く持っている(外出・外食・買い物・散歩) ・季節毎に行事を多く行い利用者、職員が共に楽しめるようにしている。 ・神社清掃・町内行事に積極的に参加、保育所や小中学校など地域との交流が多い

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅街の近くにある開設8年目の事業所である。開設当初から地域に密着した事業所になるよう、地域行事への参加等日常的な交流のほか、毎月の清掃活動や運営推進会議を通して地域の一員として貢献している。外へ出て五感で季節を感じてもらうことを大切にしており、普段から中庭に出て自然を満喫している。毎月色々な場所へ外出をした写真や、利用者の表情を載せた事業所のお便りは、家族に楽しそうな利用者の様子が伝わり好評である。事業所へのボランティアの訪問や同系列のデイサービスとの交流も盛んで、利用者が笑顔で毎日を生き生きと過ごすことができるように職員全員が真心を込めて取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームひがし野
(ユニット名)	なのはな(1F)
記入者(管理者)	
氏名	前田 淳一
評価完了日	平成25年 1月 16日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 毎朝の朝礼、月2回のカンファレンスで、原点を忘れないよう理念斉唱をし業務を行う上での指針にしている。	
			(外部評価) 「誠心誠意」を基本理念に利用者の立場に立ち、真心を込めたケアを実践している。職員の入社時には、理念を基にケアに対する事業所の考え方等の説明を行っている。常に意識し実践していけるように朝礼で理念等を唱和するなど職員全員で取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 月1回の地域の神社の清掃を継続して行っている。地域の祭りや文化祭に参加したり、回覧板を利用者と一緒に持って行く等、地域との交流を積極的に行えるよう努めている。	
			(外部評価) 地域行事にはよく参加しており、町内運動会は利用者の楽しみのひとつになっている。事業所の中庭で毎年行っている夏祭りは地域住民も含め多数の参加があり、地域のにぎやかなイベントになっている。開設当初から事業所近くの神社の清掃を利用者と一緒に行う等、地域の一員として積極的に働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議に、地域の方にも参加して頂き認知症に関する理解を深めてもらったり、徘徊模擬訓練を行い入居者様が施設を出て不明になった場合を想定し、地域の方にも協力して頂き、発見に努める訓練を実施した。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヵ月毎に運営推進会議を開催し、地域住民や近隣住民の方に対して理解を深めることが出来るよう努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議には、市担当者や地域包括支援センター職員、地域の役員や住民も参加してもらい、事業所の状況報告のほか、地域の行事や住みよい地域にしていくための意見交換が積極的に行われている。普段は夜間に開催しているが、事業所内の見学と食事を兼ねて昼間に開催する等工夫をしている。会議の様子は記録と写真に残してより充実したものになるように取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加してもらい、GHでの取り組みや活動等を伝え、積極的に意見交換を行い連携を密にしている。	
			(外部評価) 運営推進会議で市担当者や地域包括支援センター職員から、家族介護教室の紹介等様々な情報の提供がある。普段から事業所の状況を伝えたり相談や連絡を行っており、信頼関係が構築できている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) カンファレンス等で取り上げ、理念に基づき対応している。常に問題意識を持ち、職員全員で話し合い、日々の支援を行っている。	
			(外部評価) 身体拘束の具体的な行為と弊害について勉強会を実施し、職員全員で理解に努めている。職員は、身体だけでなく言葉で行動を拘束していないか常に注意し、気持ちにゆとりを持ってケアを行い利用者の安全で自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法の研修に参加している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し学んでいる。またカンファレンス時に研修報告の時間を設け、発表し知識を共有している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に契約書をもとにしっかりと説明、不安や疑問点のないように十分な説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎月ADLや月間の様子をご家族へ連絡しご意見、要望などを確認している。運営推進会議では行事報告等、活動を写真で様子が分かるよう外部者に公開している。	
			(外部評価) 面会に訪れる家族は多く、毎月、利用者の様子を写真入りの書面や電話連絡で報告している。報告では、日々の生活の中で利用者が喜ばれ、笑顔になったエピソードを家族に伝えるようにしている。家族会は年に2回行事と合わせて行い、家族同士の交流、意見や要望を伝えやすい機会となっている。意見や要望は職員全員が把握し、共有するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) カンファレンス、運営推進会議などで職員同士が話し合い運営に反映している。また日常業務の中で改善点や問題点などあれば随時反映できるようにしている。 (外部評価) 管理者には、カンファレンス等で意見や提案をすることができ、日常業務の中でも意見や要望を伝えやすい環境が整っている。毎月の目標は職員が話し合って作成し、外部研修にも積極的に参加できる体制が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 毎年個人面談を設け、目標、待遇面などで代表者と話し合う機会を設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) GH間の相互研修に参加したり、認知症に関する研修や公文学習療法の研修をおこなっている。カンファレンスにおいても外部講師を招き研修の機会を設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 包括支援センターが主催する連絡会や認知症を理解するための人形劇に参加。またGH間の相互研修に参加し、相互訪問を行い改善点を見つけたりサービスの質の向上に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に得た情報を職員全体で共有しより良いケアが出来るよう努めている。初期段階で関わる時間を多くもつことで、本人が安心できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には施設の方針を説明し本人、家族の意向や生活歴、趣味、嗜好など詳しく話し合い不安や疑問の解消に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の意向や要望を十分に理解し必要なサービスを見極め、よりニーズに即した対応が可能である。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事の下ごしらえや掃除等、何をするにも入居者を巻き込んで行えるようにしており、生活の主体となってもらえるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来所時や毎月の報告等で、本人の今の状況や課題等の情報を共有している。また家族の意見を尊重し支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 若い頃に住んでいた地域への外出の機会を設けるなどしている。面会に関しては特別な事情がない限り受け入れている。 (外部評価) 利用者の馴染みの人や場所を把握し、関係が継続できるように努めている。入居年数の長い利用者は、他の利用者や職員、併設するデイサービスの利用者との新しい馴染みの関係を構築するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の関係に気を配っている。入居者同士がトラブルになりそうな時は、必ず職員が間に入り話を傾聴、トラブルを未然に防ぐよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後もいつでも来所できるよう声掛けを行っている。他施設に移った場合でも電話連絡や訪問など経過の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一対一で話をする時間を作り、本人の思いや希望、意向を聞き取れるよう努めている。困難な場合にも本人のQOL、日々の気付きなどを共有し検討している。	
			(外部評価) 利用者の生活歴や家族からの情報を踏まえ、会話や日常の関わりの中から思いを把握し、一人ひとりの意向に沿えるように取り組んでいる。思いや意向を伝えにくい利用者には、日常のどのような場面で笑顔が見られるかなど、表情や行動から汲み取り把握している。知り得た情報は記録に残し、職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 個々のアセスメントを行い、今まで使っていた家具等を居室に設置することで、環境の変化を出来るだけ少なくするよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタル測定や排泄及び入浴時等に、身体の状態、心身の状態の把握に努めている。入居者の出来る事を探し、職員全体で把握し、一緒に実施するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にカンファレンス等でスタッフや家族との話し合い合いで意見を出し合い、常に本人の状況変化に気を配り介護計画に反映している。	
			(外部評価) 介護計画は、利用者や家族の意見を反映し計画について職員で話し合い、計画作成担当者が作成している。経過記録を介護計画の内容と連動して記入するようになっており、職員は常に介護計画の内容を意識してケアに取り組んでいる。モニタリングは毎月行い、現状に合った介護計画になっているか確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人記録に気づきや変化、成功例、失敗例を記入し、スタッフ全体で共有・実践している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ケアマネと相談しながら、ニーズに応じた対応が出来るよう努めている。また同事業所が運営しているデイサービスとお互いに交流をするなど、周囲の資源を活かし臨機応変なサービスが提供できるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 町内行事への参加や買い物など、本人の状況に応じた社会参加が出来るよう支援している。外食・外出も毎月行い、楽しみを持って生活できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的に協力医療機関の往診を受けつつ、本人・家族 の希望があれば、スタッフもしくは家族動向でかかり つけ医へ受診できるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望する今までのかかりつけ医や専門 医の受診ができるよう支援している。毎月2回は往診 があり、異常時には早期発見できるよう健康管理をし ている。緊急時には速やかに適切な医療が受けられる ように体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師または協力医療機関へ、日常気付いた変化等す ぐに伝え相談でき、随時適切な対応ができる体制が 整っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院と連絡を密に取り、早期退院に向けた相 談、可能な限り再入所に向けた努力をしている。入院 中はお見舞いを定期的に行い、情報の共有に努めてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時及び実際に必要になった場合の両方で話し合い の場を持ち、重度化や終末期の対応について方針を確 認し合っている。必要に応じて提携している医療機関 にも同席してもらい専門的立場からの意見も参考に取 り入れている。	
			(外部評価) 今までに看取りの経験はないが、事業所での看取りを 希望している利用者や家族はいる。看取り支援を行う 方針のため、職員全員が勉強会を行い医師から講話を 受けたりケアの知識の向上について学び支援体制を整 えている。医療機関とも連携や協力体制が整っている。	看取りの経験が現時点ではないため、看取り支援を行って いる他事業所の実際の事例の経験談を聞いたり、看取りにつ いて身近に考え知識や気持ちを深めたりしていくことが望まれ る。実際に看取り支援を行う時に利用者と家族が安心して納 得のいく終末期を迎えることができるよう取組みが期待され る。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 地域で実施している救命救急講習への参加で応急処置や対応などを身に付けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域で行われる訓練や消防署立会いの避難訓練等を定期的に行い、反省会・意見会を開き安全に確実な避難が出来るよう訓練を行っている。 (外部評価) 定期的な避難訓練の実施に加えて、地震対策について職員が話し合い、安全のため利用者の居室をはじめ家具の固定やガラスの破損防止シートを貼る対策をとった。地域と一緒に避難訓練を行い、避難場所として提供できるように食料品等も備えている。	地域と一緒に避難訓練を行い事業所の近所の住民に災害時の協力依頼をしているが、さらに地域の防災会議に参加する等、地域ぐるみで具体的な支援体制が整備されることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の方々の尊厳と権利を守るためプライバシーの確保をしていく事を職員全員が徹底している。言葉づかいや声の大きさタイミングなど注意を払って接している。 (外部評価) 入浴時や排泄介助時等は、特に利用者の気持ちを考えて声かけや対応に配慮している。職員が慣れ合いになって利用者のプライドを傷つけるような言葉遣いになっていないか常に注意して一人ひとりの尊厳と誇りを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) お茶の時間、飲みたいものを選ぶ、入浴の時間、更衣時に着たい洋服を選んでもらう、献立に利用者の食べたい物を聞き取り入れるなど、出来る限り個々の自己決定を尊重した対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ケアプランを中心に日々のケアを行うが、その度に訴えがあれば要望や訴えを優先しケアを行っている。また職員同士が情報共有をし、その人に合った支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服を選んでもらったり、アクセサリを身に付けたり、女性であれば化粧をしたり等、本人の希望を取り入れながらその時に合わせて更衣、整容しその人らしい身だしなみができるよう努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立を考える時、何が食べたいかを聞き可能な限り希望に添えるよう努めている。また大勢で一緒に楽しく美味しい食事がとれる様支援している。	
			(外部評価) 利用者と相談しながらその日の献立を立てたり、食材の買い出しの時にも利用者に選んでもらったりすることを大切にしている。おせちを一緒に作ったり、いもたきを中庭で食べたり、毎月外食を企画する等食べる事が楽しみになるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の献立は入居者の好みなど聞きながらバランスのとれたものになるようにしている。一日の食事量、水分量をチェックし各入居者の摂取量を把握し体調の変化にも対応できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアは毎食後の声かけにて定着しており出来にくい部分は職員が介助を行っている。また夜間は義歯を外して洗浄、清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを把握する為に記録、見守りを行っている。時間帯や表情で察知し排泄の誘導、声かけの支援を行っている。また排便の間隔が長い利用者には個々に合わせ食べ物、下剤を使用し排便を促している。	
			(外部評価) 排泄パターンを把握し、その日の体調や状況に沿った支援を行っている。なるべくオムツに頼らずトイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 牛乳やヤクルトなどの乳製品、繊維の多い食品などを摂取できるよう心がけ、体操や散歩など全身運動、マッサージなどを取り入れ自然排便の促進に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴したい、入浴する時間帯に希望があるなど本人の希望に添っている。入浴したくない場合は無理強いないで本人の意思を尊重している。入浴時には本人の好きな話題でコミュニケーションをとりながらリラックスできるよう支援している。	
			(外部評価) シャンプーや石けん類は利用者の好みのものや使い慣れたものがある場合は個別に使用している。利用者の状態に応じて同性での介護や、安全に入浴できるように職員が2人で介助する等安心して気持ち良く入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はリビングで皆とレクや体操をしたり、テレビ、外出、散歩、買い物等適度に身体を動かし、良く眠れる様にしている。疲れた時にはいつでも休めるよう声かけしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の管理はスタッフが行き、日付、名前、服薬時間を使用者と一緒に確認して服薬している。処方箋のファイルを作り、いつ、何の薬が処方されているのかスタッフがすぐわかるようようにしており、症状の変化に対応できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 朝の掃除では、それぞれが自分の役割となっていることを自発的、または声掛けにて行っている。一人ひとりの楽しみごとを見つけ、気分転換が図れるように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日の買い物に利用者を誘ったり、天気の良い日は散歩に誘って、一緒に出掛けている。月一回の外出の日を設け、利用者の行きたい所の希望があれば行けるように努めている。年一回、家族と利用者と一緒に参加できるバス旅行にも行っている。	
			(外部評価) 四季折々色々な場所へ積極的に外出している。家族も参加できるバス旅行は利用者にとって楽しみな行事になっている。日常的に中庭に出て食事をしたり季節を感じてもらったりすることを大切にしながら外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 毎日の買い物の時に、必要な日用品や嗜好品など利用者と一緒に選び購入できるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の家族等に特に事情がない限り、本人の希望があれば自由に連絡が取れるようにしている。状況に応じて、家族の協力を得て、家族から電話をして頂き、利用者喜びを感じて頂けるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングやダイニングには季節ごとの掲示物や花や人形などを置き、和やかに過ごせるよう心掛けている。必要に応じてカーテンをしたり、冷暖房を付けたり、室内が過ごしやすいうように室温、調光に気を付けている。</p> <p>(外部評価) リビングの大きな窓からは、広々とした中庭が見え季節や天気を感じることができる。キッチンがオープンで利用者の様子を見やすく、一緒に料理を作りやすい空間になっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) テレビが見たい方は自室やリビングでくつろいだり、横になりたい方は、自室へ誘導したり、退屈そうにしている方はレクリエーションや買い物散歩に誘うなど、利用者のその時の気持ちに考慮したケアを心がけている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具を使用し利用者がその人らしい生活ができるよう環境を整えている。写真や作品を飾ることによって、居心地良く過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価) ベッドとクローゼットは備え付けてあるが、家具や仏壇等利用者の馴染みのものを持ち込んでもらっている。利用者が落ち着いて過ごすことができるよう家具の配置や居室の雰囲気づくりに工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) リビングダイニングには仕切りがなく見渡せるようになっており、利用者やスタッフの位置状況が把握しやすくなっている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104720
法人名	(有)ノリテック
事業所名	グループホームひがし野
所在地	愛媛県松山市畑寺町丙68-1
自己評価作成日	平成25年 1月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 2 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者本位を第一に日常生活が利用者主体になるよう取り組んでいる ・外に出かける機会を多く持っている(外出・外食・買い物・散歩) ・季節毎に行事を多く行い利用者、職員が共に楽しめるようにしている。 ・神社清掃・町内行事に積極的に参加、保育所や小中学校など地域との交流が多い

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅街の近くにある開設8年目の事業所である。開設当初から地域に密着した事業所になるよう、地域行事への参加等日常的な交流のほか、毎月の清掃活動や運営推進会議を通して地域の一員として貢献している。外へ出て五感で季節を感じてもらうことを大切にしており、普段から中庭に出て自然を満喫している。毎月色々な場所へ外出をした写真や、利用者の表情を載せた事業所のお便りは、家族に楽しそうな利用者の様子が伝わり好評である。事業所へのボランティアの訪問や同系列のデイサービスとの交流も盛んで、利用者が笑顔で毎日を生き生きと過ごすことができるように職員全員が真心を込めて取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひがし野

(ユニット名) こすもす(2F)

記入者(管理者)

氏名 前田 淳一

評価完了日 平成25年 1 月 16 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 朝礼にて、理念の斉唱をし意識付け、日頃の介護の指針としている。また詰所に掲示しいつでも確認できるようにしている。	
			(外部評価) 「誠心誠意」を基本理念に利用者の立場に立ち、真心を込めたケアを実践している。職員の入社時には、理念を基にケアに対する事業所の考え方等の説明を行っている。常に意識し実践していけるように朝礼で理念等を唱和するなど職員全員で取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内会の主な行事への参加や神社清掃、事業所が運営している駄菓子屋での店番の手伝いを通して子供達との交流が出来るよう努めている。	
			(外部評価) 地域行事にはよく参加しており、町内運動会は利用者の楽しみのひとつになっている。事業所の中庭で毎年行っている夏祭りは地域住民も含め多数の参加があり、地域のにぎやかなイベントになっている。開設当初から事業所近くの神社の清掃を利用者と一緒に行う等、地域の一員として積極的に働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 徘徊模擬訓練や運営推進会議に参加して頂き認知症への知識を深めてもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 参加して頂いた地域の方、ご家族の意見を頂き運営やサービス向上へ活かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、市担当者や地域包括支援センター職員、地域の役員や住民も参加してもらい、事業所の状況報告のほか、地域の行事や住みよい地域にしていくための意見交換が積極的に行われている。普段は夜間に開催しているが、事業所内の見学と食事を兼ねて昼間に開催する等工夫をしている。会議の様子は記録と写真に残してより充実したものになるように取り組んでいる。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議へ出席して頂き、情報交換を行うことで連携を深めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議で市担当者や地域包括支援センター職員から、家族介護教室の紹介等様々な情報の提供がある。普段から事業所の状況を伝えたり相談や連絡を行っており、信頼関係が構築できている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) スタッフ全体が拘束に対する意識を常に持ち、カンファレンス等で話し合い介護の方法を検討している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束の具体的な行為と弊害について勉強会を実施し、職員全員で理解に努めている。職員は、身体だけでなく言葉で行動を拘束していないか常に注意し、気持ちにゆとりを持ってケアを行い利用者の安全で自由な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体的虐待や精神的虐待についてカンファレンスの議題で取り上げ話し合っている、家族や来所の方、スタッフ間で気付く事があれば前向きに話し合う機会を設けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修会に参加してその理解を深めるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に不安や疑問がある場合十分な話し合いを持ち解決するよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や運営推進会議等、家族や利用者が意見や要望を表せる機会を設けたり、毎月末には家族への利用者の様子報告の際に意見を聞いたりしている。	
			(外部評価) 面会に訪れる家族は多く、毎月、利用者の様子を写真入りの書面や電話連絡で報告している。報告では、日々の生活の中で利用者が喜ばれ、笑顔になったエピソードを家族に伝えるようにしている。家族会は年に2回行事と合わせて行い、家族同士の交流、意見や要望を伝えやすい機会となっている。意見や要望は職員全員が把握し、共有するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) カンファレンスや運営推進会議等、職員が意見交換できる場を設けている。また意見・質問ノートを設置しており運営に反映するよう努めている。 (外部評価) 管理者には、カンファレンス等で意見や提案をすることができ、日常業務の中でも意見や要望を伝えやすい環境が整っている。毎月の目標は職員が話し合って作成し、外部研修にも積極的に参加できる体制が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 毎年個別に面談を行い、待遇や目標など代表者と話し合う場を設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 運営理念の一つに、常に自身の向上に努めます。と取り入れカンファレンス時や就業時間外でスタッフが集まり勉強会や研修を行う。また外部の講習等にも積極的に参加できるように取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者との交流を図り意見交換を行ったり、お互いの運営推進会議へ参加したり、相互訪問研修を通じ情報の共有をしサービス向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 日常はダイニング・ソファ等、利用者同士顔を合わせ談話して過ごしている時間が多く要望の発信は察知しやすい環境であり訴えには即座に応じられるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始の際に家族等と話し合いをしやすい環境づくりをし、困っていることや要望等を細かく聞き取り、何かあるときは家族等にすぐ連絡するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族のニーズを把握し、入浴、食事、レクリエーション等の意思を尊重したサービスプランを立てている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の出来る事をスタッフが把握、共有し個々の残存機能を活かし掃除、食事作りなど共に行っている。また会話も利用者を巻き込んで話を盛り上げ、本人のやりたいことを引き出すよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族とコミュニケーションを図り、現在の状況などを常に報告して話をする場を設けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人や知人の面会を受け入れている。日常の買い物や外出などで入居者の昔住んでいた家の近所、馴染みの場所へ出かけるなどしている。手持ちの写真などを見ながら昔の話を聞いたりしている。 (外部評価) 利用者の馴染みの人や場所を把握し、関係が継続できるように努めている。入居年数の長い利用者は、他の利用者や職員、併設するデイサービスの利用者との新しい馴染みの関係を構築するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) それぞれの入居者同士の関係を理解しスタッフが間に入って橋渡しをすることでトラブルを未然に防いだり円滑なコミュニケーションが図れるよう気を配っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後でもいつでも来所できるよう声掛けを行っている。施設に移った場合でも電話や訪問などで経過の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 事業所の理念に基づきその人その人の希望を大切に訴えがあれば話し合いその人にマイナスにならない場合は希望をかなえられるよう話し合いをしている。日々コミュニケーションを多くとり一人一人の思いや意向の把握に努めている。	
			(外部評価) 利用者の生活歴や家族からの情報を踏まえ、会話や日常の関わりの中から思いを把握し、一人ひとりの意向に沿えるよう取り組んでいる。思いや意向を伝えにくい利用者には、日常のどのような場面で笑顔が見られるかなど、表情や行動から汲み取り把握している。知り得た情報は記録に残し、職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の生活や馴染みの暮らしをアセスメントし今までに使っていた家具などご本人の大切に使用していたものを居室に置き少しでも安心して生活できるよう環境づくりに努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日決まった時間にバイタル測定し身体状態の把握に努めている。ご本人それぞれに日常生活の中で出来る事を見つけ、役割として支援している。生活記録を共有し日々の過ごし方を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) カンファレンスでユニットスタッフが集まり気付きや意見アイデアを出し合い利用者様の変化に応じ臨機応変に見直し介護計画を立てている。	
			(外部評価) 介護計画は、利用者や家族の意見を反映し計画について職員で話し合い、計画作成担当者が作成している。経過記録を介護計画の内容と連動して記入するようになっており、職員は常に介護計画の内容を意識してケアに取り組んでいる。モニタリングは毎月行い、現状に合った介護計画になっているか確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 職員間の周知もかね個別に時間を追い記録している。ケアプランに沿った内容には印をつけ実践できたことを再確認し、普段とは変わった様子や会話等を中心に記録している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 月2回の会議で気付いた事や必要なことについて話し合い、また申し送りノートを活用することで、利用者それぞれにあったサービスが提供できるように取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域行事への積極的な参加、地域の保育所や小中学校との交流をしている。また買い物や外出、外食などを行い地域とのつながりを持っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 基本的には同意を得たうえで、協力医療機関による定 期的な受診を受けながら、本人・ご家族の希望がある 方については、スタッフもしくはご家族が同行し受診 できるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望する今までのかかりつけ医や専門 医の受診ができるよう支援している。毎月2回は往診 があり、異常時には早期発見できるよう健康管理をし ている。緊急時には速やかに適切な医療が受けられる ように体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤の看護職員、協力医療機関にスタッフが気付いた 少しの事でも報告し指示を受けられる体制が整ってい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には密に連絡を取り、病状の経過、退院の時期 を相談し出来るだけ早く再入居できるよう対応してい る。職員が出来る限り病院へ行き心のケアになるよう 努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時及び実際に必要になった場合の両方で話し合い の場を持ち、重度化や終末期の対応について方針を確 認し合っている。必要に応じて提携している医療機関 にも同席してもらい専門的立場からの意見も参考に取 り入れている。	看取りの経験が現時点ではないため、看取り支援を行って いる他事業所の実際の事例の経験談を聞いたり、看取りにつ いて身近に考え知識や気持ちを深めたりしていくことが望まれ る。実際に看取り支援を行う時に利用者と家族が安心して納 得のいく終末期を迎えることができるよう取組みが期待され る。
			(外部評価) 今までに看取りの経験はないが、事業所での看取りを 希望している利用者や家族はいる。看取り支援を行う 方針のため、職員全員が勉強会を行い医師から講話を 受けたりケアの知識の向上について学び支援体制を整 えている。医療機関とも連携や協力体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 地域で行っている講習会などに参加し学べる機会を持っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練や避難訓練を定期的に行い、いざという時に備え全職員が訓練を受け避難方法を身に付けるようにしている。 (外部評価) 定期的な避難訓練の実施に加えて、地震対策について職員が話し合い、安全のため利用者の居室をはじめ家具の固定やガラスの破損防止シートを貼る対策をとった。地域と一緒に避難訓練を行い、避難場所として提供できるように食料品等も備えている。	地域と一緒に避難訓練を行い事業所の近所の住民に災害時の協力依頼をしているが、さらに地域の防災会議に参加する等、地域ぐるみで具体的な支援体制が整備されることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者一人一人を人生の先輩として、尊敬の念を持ちプライドを傷つけないような対応、声かけを心掛けている。また、申し送り等スタッフ間では居室番号で呼ぶようにしている。 (外部評価) 入浴時や排泄介助時等は、特に利用者の気持ちを考えて声かけや対応に配慮している。職員が慣れ合いになって利用者のプライドを傷つけるような言葉遣いになっていないか常に注意して一人ひとりの尊厳と誇りを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活の中で選択の出来る場面を多く作るよう意識し本人の自己決定を促している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物や外出、日常生活など一人一人のペースや希望を優先にそれに沿えるように努めている。全体行事等も気持ちよく参加して頂けるよう工夫しているが拒否があれば本人の意向を尊重している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝の洋服選びや外出時の更衣時一緒に選んだり女性であれば化粧をしたり、毛染めをされる方にはスタッフが施行したりと本人の意見を取り入れながらその人らしい身だしなみが出来るようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その人その人の出来る事を見極め見守りながら手伝ってもらい一緒に食事を作ったり、食事の時には各テーブルにスタッフが座り会話をしながら食事出来るよう支援している。	
			(外部評価) 利用者と相談しながらその日の献立を立てたり、食材の買い出しの時にも利用者を選んでもらったりすることを大切にしている。おせちを一緒に作ったり、いもたきを中庭で食べたり、毎月外食を企画する等食べる事が楽しみになるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の状態にあわせた食事形態や好みの物を取り入れ無理なく食事摂取できるようにしている。また一日の水分量、食事量を記録し十分に摂取出来ていない方には合間合間に提供したりと工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアは毎食後に声かけを行っており出来にくい部分や歯磨きが難しい方には職員の介助により行えている。また、義歯を使用している方には夜間に洗浄消毒をし、清潔を保っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定期的に声掛けをしスムーズな排泄を促している。一人一人のパターンを把握するため排泄表を付けその人に合わせた声かけを心掛けトイレでの排泄の支援を行っている。	
			(外部評価) 排泄パターンを把握し、その日の体調や状況に沿った支援を行っている。なるべくオムツに頼らずトイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 牛乳、ヨーグルト、ヤクルト等を提供したり繊維の多い食品を使う等、食事内容を工夫したり、レクの時間に体操や散歩で身体を動かすなど、自然排便を促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間に希望のある人はそのタイミングに合わせてられるよう支援している。また拒否がある場合は意見を尊重し無理強いしないようにしている。	
			(外部評価) シャンプーや石けん類は利用者の好みのものや使い慣れたものがある場合は個別に使用している。利用者の状態に応じて同性での介護や、安全に入浴できるように職員が2人で介助する等安心して気持ち良く入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 疲れが見られる時は、居室で休んでもらうよう支援している。日中適度にレクリエーションで体を動かし、よく眠れる様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬前には名前、日付、服薬時間を確認し本人が内服し終わるまで確認している。そのうえで生活状況、バイタル等に変化があった場合はすぐに看護職員に連絡し指示を受けるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人の生活歴や会話などから趣味や日常生活で出来る事を把握し毎日の生活に取り入れ、張り合いがもてる日々を過ごせるよう努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日の買い物や散歩、月一回の外出、外食等、定期的に外出できる機会を設けている。また本人の希望があればその都度外出できるよう支援している。	
			(外部評価) 四季折々色々な場所へ積極的に外出している。家族も参加できるバス旅行は利用者と家族にとって楽しみな行事になっている。日常的に中庭に出て食事をしたり季節を感じてもらったりすることを大切にしながら外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理できる方は少額のお金は所持している。そうでない方は職員が管理しているが、買い物時は自分で使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の事情によりできない場合もあるが、それ以外は訴えがあれば連絡がとれる様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) BGMにリラックスできる曲を流している。職員の声、食器の音など、利用者にとって不快にならない様支援している。庭に咲いている花を活け季節感を味わえるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) リビングの大きな窓からは、広々とした中庭が見え季節や天気を感じる事ができる。キッチンがオープンで利用者の様子を見やすく、一緒に料理を作りやすい空間になっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 台所、リビングスペースにおいてゆとりがあり、職員目の届く中で一人一人の居場所を持てるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室には自宅から持ち込んだ家具を設置したり写真等、掲示物を工夫したり、出来る限り本人の過ごしやすい空間が保てるようにしている。</p> <p>(外部評価) ベッドとクローゼットは備え付けてあるが、家具や仏壇等利用者の馴染みのものを持ち込んでもらっている。利用者が落ち着いて過ごすことができるよう家具の配置や居室の雰囲気づくりに工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ダイニング、リビングには視界を遮るものがなく常に見守りの出来る空間になっている。</p>	